

5-3		主題	寝たきりの方や看取り介護の方に対する タクティールケアによる心身の効果について	
タクティールケア 個別ケア		副題	ご利用者・ご家族との関わりの中で学ばせて頂いたこと	
研究期間	6ヶ月	事業所	千代田区立一番町特別養護老人ホーム	
発表者：泉澤直人		アドバイザー：原 智代		
共同研究者：武田和歌子・鈴木恵・岡村圭				
電 話	03-3265-6131	メール		
FAX	03-3265-6136	URL	http://www.ikiikiplaza-eiwa.jp/	

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	社会福祉法人東京栄和会を運営母体とし平成7年5月に開設。特養82床・ショート8床・デイサービス・地域包括支援センター・居宅介護事務所を併設し、地域の方向けのプールや多目的ホールもある区立の公共施設です。都心というアクセスの良さから多くのご家族やボランティアが来所されます。「思いやりの心の介護」を理念とし、個人の尊厳を重視した笑顔溢れるサービスの提供を目指しています。
------------------------------	--

《研究前の状況と課題》 特養に入所されている方の多くが加齢と共に重度化し、日常をベッドや車椅子で過ごされるなかで、音楽クラブなどのクラブ活動や各種行事という日々の活動だけでは個別のニーズに答えきれていないのではないかと、この事が取り組むきっかけでした。それぞれの潜在的な思いに寄り添い、介護職員が行える身体的な症状(痛みや拘縮等)を緩和する具体的な方法を模索していました。一方で、毎日の業務に追われ、その場その場の対応をせざるを得ない余裕のない現状もあり、長く勤めるにつれ「やりがい」を見失う介護職員もいました。 ご家族と共に穏やかな安らぎの中での「旅立ち」の日まで過して頂く手段はないか、介護職員にもやる気や癒しをもたらす事はできないかを検討した結果、タクティールケアを実践していく事としました。	《研究の目標と期待する成果》 ① 身体的苦痛の軽減と精神的な安定。 ② 身体的レベルの低下による不安感をやわらげ、笑顔のある生活を送る。 ③ ご家族と共に穏やかな「ターミナル」を過ごす。 この3点を目標に、多くのスタッフがご利用者とスキンシップを図ることができる。 また、ご家族とも情報を共有し、コミュニケーションをとることで介護に参加して頂けることを期待して、タクティールケアに取り組みました。
--	--

《具体的な取り組みの内容》

【取り組み内容】

- ・対象者(重度高齢者)4名のピックアップ
- ・平成22年11月～平成23年5月までの6カ月間で実施。
- ・午後または就寝前の平均15分程度(背中・手・足のいずれか、または組み合わせで)行う。
- ・評価は身体面・精神面での変化を記録し、フェイススケールも用いてデータ化する。
- ・実施前・実施日の夜間の様子と比較する。
- ・面会に来られたご家族へタクティールケア後のご様子を報告する。

【職員構成】

介護職員 4名

【道具】

- ・バスタオル、膝あて用クッション、ラジカセ(癒し系のBGM)、看板、ベビーオイル

【注意事項】

- ・体調を考慮し、居室など終了後すみやかに眠りにつける静かな環境を準備する。
- ・ご本人の身体的負担がかかるご様子が見られたらすみやかに終了する。

【施設からのバックアップ】

- ・認定インストラクターによる月1回の施設内研修の開催
 - ・随時、技術習得のための研修に参加
- ⇒・多くの職員に体感してもらう事で技術向上と取り組みへの理解の機会とする。
- ・職員同士ケアを行う事での癒しの効果。

《取り組みの結果と評価》

- ・パーキンソン病の進行のため全身の拘縮が顕著で苦痛の表情がみられたが、開始後は徐々に拘縮が緩み、表情も穏やかになり「ありがとう」との言葉も聞かれた。
- ・看取り介護を始め終日寝たきりとなった方の場合、表情の変化は読み取れなかったが、体の緊張がいくらか緩む様子がみられた。またご家族も毎日面会に訪れ、介護職員と共に間食の介助を行って頂けるようになった。(13回目終了後、安らかにご逝去され、ご家族の感謝の言葉が介護職員のやりがいにも繋がった)
- ・痙攣発作を起こしやすい方では、ケアを始めてからは発作はみられなくなり、呼吸が楽になって寝息をたてて休まれる様子がみられた。

《まとめ》

タクティールケアの実践を通じ、人はどのような状態であっても、肌と肌が触れ合うことで癒され、安らぎを得られる可能性があることを感じました。個々の状態に応じながらも、まだ手探りで取り組みを進めている段階で、プログラムとして習慣化できていない事が課題です。今後ご利用者の内面の声に耳を傾けながら継続して取り組むと同時に、認知症による諸症状のみられる方(帰宅欲求や不安定な言動、徘徊等)への実践を進め、ご家族の介護負担を軽減し、職員間での理解を得ながら日課に組み込めるよう検討していきたいと思います。

《参考文献》

タクティールケア普及を考える会/編著(2008)
タクティールケア入門：日経 BP 企画

《提案と発信》

超高齢社会が進む中で、どの施設でも個別ケアの必要性を改めて感じていると思います。私たちは介護職員ができる寝たきりの方に対するコミュニケーションの一つとしてもタクティールケアが有効であることを実感しています。～まずは是非ご自身で体感してみてください～

【メモ欄】